



お客さま向け資料

ブラジルの政策金利引上げについて

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

2011年1月19日(現地)、ブラジル中央銀行はCOPOM(定例金融政策委員会)において、Selic(政策金利)を0.50%引き上げ、年率11.25%とすることを決定しました。引き上げは昨年7月21日以来となります。

ブラジル中央銀行は2010年4月から7月まで、合計3回にわたって政策金利を合計2.00%引き上げた後、8月、10月、12月のCOPOMでは政策金利の据え置きを決定してきました。

ブラジルでは、2010年のGDP成長率が7%超と予想されるなど国内景気が好調を持続しています。2010年11月の失業率は過去最低の5.7%、2010年通年の新規雇用創出件数は史上最高の250万件超となるなど、雇用環境が堅調に推移していることや、与信残高の急増、資源価格や食品価格の上昇などから、足元ではインフレ圧力が高まっていると見られ、ブラジル中央銀行がインフレ目標としている拡大消費者物価指数(IPCA)も、12月は前年同月比+5.91%と、中銀目標値(+4.5% ±1.5%)の上限に一段と近づきました。こうしたことから、ブラジル中央銀行は今回のCOPOMにおいてSelicの引き上げを決定したと考えられます。

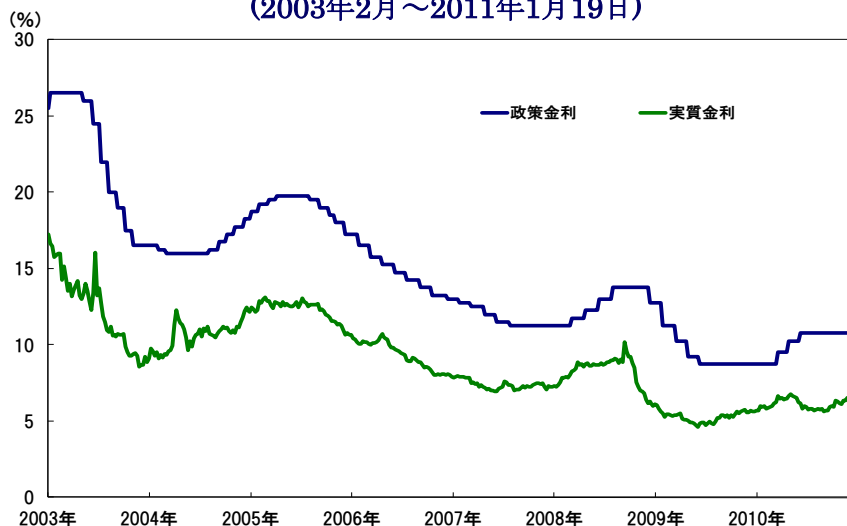
1月1日のルセフ政権発足に伴い、ブラジル中央銀行総裁がメイレス氏からトンビニ氏に交代しましたが、今回のCOPOMはトンビニ氏が総裁として迎える初めての会合であり、新総裁の下でもブラジル中銀はインフレ抑制に強い態度で臨むとの姿勢を示す狙いもあったものと見られます。

債券市場では、今回の利上げは、短期債には影響があるものの、長期債にはプラスになると見られています。為替市場では、対ドルは1米ドル=1.6708リアル(1月19日)、対円は1リアル=49.12円(1月20日)と、いずれも小幅な値動きに留まっていることから、現時点では今回の利上げによる影響は限定的であると考えられます。

株式市場では、政策金利の引き上げはほぼ織り込み済みであると考えられますが、利上げの発表が株式市場の引け後に行われたことから、今後、市場に対する影響を見極めてまいります。

また、ブラジル政府は、海外からの資金流入によりリアル高が進むことに対して強い警戒感を示していることから、リアル高抑制を目的とした追加措置導入の可能性も斟酌しながら、慎重に運用を行ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2003年2月～2011年1月19日)



2011年1月19日
10.75%→11.25%へ
0.50%の引き上げ

* 政策金利：Selicを使用。
* 実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出。